

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

創立120年の歴史を有する本校は、平成29年に大阪府立初の併設型中高一貫校として新たな一歩を踏み出した。中高一貫教育を通して生徒・保護者・地域の期待に応える進路実現を図り、地域・社会に有為な人材（グローバル・リーダー）の育成を使命とするとともに、これまで培ってきた伝統にさらなる磨きをかけ、次代へ繋ぐ。

＜中高一貫校としてめざす学校像＞

「地球的視野に立ち、地域や国のことを考え行動し、国際社会に貢献する人材」の育成校をめざす。

＜中高一貫教育を通して育みたい力＞

- (1) グローバルな視野とコミュニケーション力
- (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力
- (3) 社会貢献意識と地域愛

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

(1) カリキュラムマネジメントに基づき教育課程を編成し、各教科・科目においては、確かな学力を育成する授業・評価サイクルづくりを念頭に授業改善に取り組み、知識・技能はもとより、思考力・判断力・表現力及び、生徒の主体性・協働性を育む。

ア 45分×7限授業（高校全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む。

イ 「授業改革推進委員会」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。

ウ 各教科において中高6年一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。

エ 学習時間を記録する生徒手帳の機能を活用し、家庭での学習習慣の定着を図る。

オ 一人一台端末の導入に向けて校内体制を構築し、生徒の学びを支援、深化させる。

※（生徒対象）学校教育自己診断における授業満足度（H30: 74%、R01: 74%、R02: 76%）を向上させ、3年後に80%をめざす。

## 2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み

(1) スーパーサイエンスハイスクールとして、「探究」と「貢献」をキーワードに中高一貫した教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成し、進学実績の向上を図る。

ア 科目「探究」では、「地域と連携した探究貢献活動」を展開するとともに、大学や研究機関との連携を深め、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識及び、自己実現意識を育む。

イ・中高一貫した進路指導実現のため、学力向上戦略委員会を活性化させ、様々な取組みの具現化を図る。

・国公立大学進学者の合格者数（現役合格 H30: 50名、R01: 45名、R02: 54名）について現役では40名以上を維持し、富田林中学1期生が富田林高校を卒業する2年後以降は50名以上の合格をめざす。同時に自己実現の志を高く維持させ、難関大学（京都、大阪、神戸等）への受験者増を図る。

・国際社会における貢献意識の醸成もねらいとして、海外大学への進学ガイダンスを充実させる。

※（生徒対象）学校教育自己診断における進路指導の満足度（H30: 82%、R01: 84%、R02: 86%）を維持向上させ、3年後に90%をめざす。

また、（保護者対象）学校教育自己診断における進路指導の満足度（H30: 82%、R01: 80%、R02: 74%）について、3年後に85%をめざす。

## 3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み

(1) 充実した学校生活こそが「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。

ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する。また、中高一貫した部活動指導も図る。

イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。

ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。

※（生徒対象）学校教育自己診断の学校行事満足度（H30: 95%、R01: 95%、R02: 94%）90%以上を維持する。

(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。

ア 国際交流（アメリカ、台湾、オーストラリア、タイ、ベトナム等）を継続し、充実を図る。

イ ・台湾やオーストラリアの姉妹校との交流を継続する。

・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。

ウ 大阪府の「スマートスクール推進事業」のモデル校として、海外の学校との交流を継続・深化させる。

※（生徒対象）学校教育自己診断結果で国際交流等についての評価（H30: 88%、R01: 91%、R02: 86%）90%以上を維持する。

## 4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携

(1) 中高一貫校として再編した分掌組織について常に見直しを図り、6年一貫した教育活動の充実を図る。

ア 中高一貫の観点でそれぞれの校種の校務分掌等を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。

イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。

ウ 中高一貫校として、またSSH指定校として相応しい学校Webページの充実を図り、情報発信について質・量ともに改善する

※（保護者対象）学校教育自己診断における情報発信の満足度（H30: 86%、R01: 83%、R02: 93%）90%以上を維持向上させる。

(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。

ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを推進する。

イ 安全・安心な学校づくりに努める。

ウ 地域貢献を推進する。

エ 富田林市が「SDGs未来都市」に選定されたことに伴い、学校として取り組めることを追求する。

※学校教育自己診断における学校満足度（生徒対象 H30: 91%、R01: 92%、R02: 93% / 保護者対象 H30: 95%、R01: 93%、R02: 90%）について90%以上を維持する。

## 5 働き方改革の推進

(1) 業務の効率化を図り、職員の心身の健康を維持・増進する。

## 府立富田林高等学校

ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則った部活動指導を行い、またノー残業デーを徹底し、時間外勤務を縮減する。

イ ルーティン化している校務や業務分担の在り方を見直し、全体としての業務軽減を進めるとともに、各人の業務平準化を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価

<p style="text-align: center;">1 確かな学力の育成</p>	<p>(1) ア 45分×7限授業（高校全学年33単位）により、確かな学力の育成に取り組む。</p> <p>イ「授業改革推進委員会」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。</p> <p>ウ 各教科において中高6年一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。</p> <p>エ 学習時間を記録する生徒手帳の機能を活用し、家庭での学習習慣の定着を図る。</p> <p>オ 一人一台端末の導入に向けて校内体制を構築し、生徒の学びを支援、深化させる。</p>	<p>(1) ア・45分×7限授業（高校全学年33単位）により、学校生活をデザインする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>完成させた新教育課程をもとに、次年度に向け教科書選定など準備を進める。</li> <li>「観点別学習状況の評価」を試行実施する。</li> </ul> <p>イ・年度当初に教科ごとにアクティブラーニングの取組みを検討し、各教員が「主体的・対話的で深い学び」の授業デザインをもてるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査において、「思考力・判断力・表現力」を問う問題づくりを進め、教科の枠を超えて学び合えるように取り組む。</li> <li>中高合同の地域公開研究授業（DAY）を実施するとともに、全教科の教科研修を一定期間設け（授業交流週間 WEEKS）、各教科での研究授業を他教科からも授業参観がしやすい環境をつくる。また、授業観察シートを活用して教科の専門性を超えた授業研究を行う。</li> <li>生徒による「授業アンケート」を7月、12月に実施し、全教員による授業改善シートを作成する。</li> <li>「授業アンケート」の質問項目を見直すことにより、めざす授業像についての議論を活性化させる。</li> </ul> <p>ウ・中高の各教科において、それぞれの3年間の学びを可視化し、それを学校案内パンフレットに反映させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科、科目の各単元等が、育む力とどのように関連付けられているか見直すことにより、カリキュラムマネジメントを進める。また、探究など他教科・科目との教科横断的な観点で内容の配置や精選について検討する</li> </ul> <p>エ 生徒手帳に記録する学習時間を毎朝の SHR で確認することによって、家庭学習習慣の定着と、自学習時間の上昇を図る。</p> <p>オ 「オンライン学習研究会」を委員会組織に格上げし、校内体制の強化を図るとともに、具体的取り組みを進める。</p>	<p>(1) ア・(生徒対象) 学校教育自己診断における授業満足度75%以上を維持向上させる。[76%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観点別学習状況の評価について半数以上の教科で試行する。</li> </ul> <p>イ・(教員対象) 学校教育自己診断『『主体的・対話的で深い学び』(アクティブラーニング) を意識して授業をしている』85%以上を維持向上させる。[88%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(生徒対象) 学校教育自己診断「深く考えさせる授業が多い」80%以上を維持向上させる。[81%]</li> <li>考査問題に、思考力・判断力等を問うものを半数以上の教科で含めるようにする。</li> <li>教科研修期間を設け、半数以上の教科で研究授業を実施する。また、中高合同の地域公開研究授業を実施するなど校内全体で授業研究を実践できたか。</li> <li>2回の「授業アンケート」を実施し、全教員による授業改善シートが作成されたか。[100%]</li> <li>「授業アンケート」質問項目の見直しを図られたか。</li> </ul> <p>ウ・学校案内パンフレットが完成したか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科において、学びの内容についての議論が行われたか。</li> <li>(教員対象) 学校教育自己診断「授業方法や生徒の状況について話し合う機会が多い」90%以上を維持する。[96%]</li> </ul> <p>エ (生徒対象) 学校教育自己診断「家庭学習を平均して1日90分以上している」3学年平均75%以上をめざす。[71%]</p> <p>オ 生徒一人一人がタブレット端末を利用して学習に取り組める体制が構築できたか。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み</p>	<p>(1) ア 科目「探究」では、「地域と連携した探究貢献活動」を展開するとともに、大学や研究機関との連携を深め、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識及び、自己実現意識を育む。</p> <p>イ・中高一貫した進路指導実現のため、学力向上戦略委員会を活性化させ、様々な取組みの具現化を図る。 ・現役での国公立大学進学者の合格者数40名以上を維持し、同時に自己実現の志を高く維持させ、難関大学(京都、大阪、神戸等)への受験者増を図る。 ・国際社会における貢献意識の醸成もねらいとして、海外大学への進学ガイダンスを充実させる。</p>	<p>(1) ア・本校のSSH(開発型)の目標(課題解決に向けた科学的探究力及びその探究力の基礎となる思考力・判断力・表現力を育成するプログラムの開発)を具現化するプログラムを実行し、その成果を分析する。 ・SSHの取組みを推進するために目的別に5つの委員会を組織し、SSHの二期目の指定に向けて体制を盤石なものにする。 ・SSHとして、1年次の「探究Ⅰ」において、地域(行政、大学、研究機関、企業、NPO等)との連携を基礎に、ゼミ形式で探究活動を進め、学年末には中学とともに学年での発表や地域フォーラムを開催する。同様に2年次の「探究Ⅱ」においても活動を深化発展させる。</p> <p>イ・学力向上戦略委員会を管理職主導の形に再編し、機能強化を図る。 ・本校独自の中高一貫した「学習見える化システム」を活用し、全生徒に将来の目標設定を促す。同時に同システムの継続性、汎用性を高めるため、教育産業との連携を見通す。 ・生徒・保護者への進学説明会を適宜実施する。特に、拡大しつつある「学校推薦型選抜」「総合型選抜」についての情報提供を充実させる。 ・生徒のニーズを捉えた進学講習を充実させる。 ・外部模擬試験の結果などの振り返りを、データに基づき効果的に実施する。 ・各学年の進度に応じて、「朝学」の教材開発に取り組む。同時にその効果検証を進め、今後の「朝学」活用に生かす。 ・高校1・2年生全員に英語能力試験(外部試験)を実施する。 ・海外進学についてのガイダンスを実施する。また、「おおさかグローバル塾」など、海外進学についての事業や説明会について、適宜情報提供を行う。</p>	<p>(1) ア・SSHとして本校の到達目標を具現化するプログラムによる生徒の成長をPROG(リテラシーテスト)等で分析できたか。 (生徒対象)学校教育自己診断『探究Ⅰ・Ⅱ』などの学習活動によって、深く考える力等が身につく」70%以上を維持向上させる。[76%] (教員対象)学校教育自己診断「生徒は探究活動によって、深く考える力等が身についた」90%以上を維持する。[94%] ・SSH推進委員会を始め、再編組織は機能したか。探究活動の学年間の継承、発展などが図られたか。 ・地域(行政、大学、研究機関、企業、NPO等)を巻き込んだ地域フォーラムを20団体以上の参加を得て開催できたか。[19団体] また府外の学校からも参加者を20名以上集めることができたか。</p> <p>イ・学力向上戦略委員会によって新たな取組みを二つ以上具現化する。 ・生徒の「見える化システム」の利用率100%をめざす。同システムの継続活用のための見直しがなされたか。 ・各種説明会を実施するなど、進路についての情報提供を充実させ、学校教育自己診断における進路指導の満足度について、生徒対象は85%以上を維持向上させ[86%]、保護者対象は80%以上をめざす。[74%] ・2学年後半から計画的に進学講習(国・数・英)が実施できたか。 (生徒対象)学校教育自己診断「講習等で進路達成に必要な学力が身につく」80%以上を維持向上させる。[84%] ・模擬試験結果をデータに基づき振り返る取組みを2回以上実施する。[2回] ・「朝学」の教材開発ができたか。また効果検証を行い、今後を展望したか。 ・1・2年生全員が英語能力試験(GTEC)を受験し、その結果を「見える化システム」に反映させ活用できたか。 ・海外進学に関して説明会を実施するなど情報提供</p>
---	---	--	--

			できたか。	
--	--	--	-------	--

<p>3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取り組み</p>	<p>(1) ア 学校教育目標で設定した&lt;育みたい力&gt;の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する。また、中高一貫した部活動指導も図る。 イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。</p> <p>ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。</p> <p>(2) ア 国際交流(アメリカ、台湾、オーストラリア、タイ、ベトナム等)を継続し、充実を図る。 イ・台湾やオーストラリアの姉妹校との交流を継続する。 ・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。</p> <p>ウ 大阪府の「スマートスクール推進事業」のモデル校として、海外の学校との交流を継続・深化させる。</p>	<p>(1) ア・文化祭・体育祭の準備委員会を活性化させるとともに、次年度への引継ぎ体制を構築する。 ・グローバルリーダーの資質を涵養すべく、生徒の自主性を引き出す行事運営を行う。 ・体育祭を大阪市立体育館で実施し、伝統を継承しつつ、新たな形態を作り上げる。 ・中高合同の部活動指導を、できる範囲で取り組む。</p> <p>イ・これまで実施してきた研修内容を踏まえ、新たな研修計画を立案する。 ・挨拶運動、遅刻指導に取り組み、生活マナーを向上させる。</p> <p>ウ 中高一貫した「いじめ基本方針」に基づき、いじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。</p> <p>(2) ア 新型コロナ禍の中、台湾やオーストラリア、タイをはじめとする様々な国の生徒との交流の可能性を探る。</p> <p>イ・姉妹校の状況を確認し、今後の継続交流に向けて見通しを立てる。 ・中高6年間を見通した海外研修を複数計画し、それぞれの研修のねらいを明確にしておく。また、海外研修の実施が無理な場合、国内における代替企画を立案、実施する。</p> <p>ウ スマートスクール「モデル校」指定を受け、海外の高校生等とテレビ会議システムを活用し、共同研究に取り組む。</p>	<p>(1) ア・(生徒対象) 学校教育自己診断結果における行事満足度 <b>90%</b>以上を維持する。[94%] ・体育祭を体育館で実施し、次年度以降に繋ぐことができたか。 ・部活動加入率 <b>90%</b>以上を維持する。[91%]</p> <p>イ・時代のニーズに合致した人権研修を1回以上実施する。[1回] ・(生徒対象) 学校教育自己診断結果における人権教育満足度 <b>90%</b>以上を維持する。[92%] ・(生徒対象) 学校教育自己診断結果における生活指導に対する理解 <b>85%</b>以上をめざす。[83%]</p> <p>ウ (生徒対象) 学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度 <b>90%</b>以上を維持向上させる。[91%]</p> <p>(2) ア 今後を見据え、海外の2校以上の学校と交流を実現させる。[1校]</p> <p>イ・姉妹校と今後の交流について意見交換ができたか。 ・ねらいを明確にした海外研修プランが完成したか。 ・新型コロナ禍の影響で海外研修が実施できなかった場合、代替企画を国内で実施できたか。 ・(生徒対象) 学校教育自己診断「学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通してグローバルな視野とコミュニケーション力の育成に努めている」<b>90%</b>以上をめざす。[86%]</p> <p>ウ 海外の学校とテレビ会議システムを活用して共同研究が行えたか。</p>

<p>4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携</p>	<p>(1)</p> <p>ア 中高一貫の観点でそれぞれの校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。</p> <p>イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国のエデュケーション先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。</p> <p>ウ 中高一貫校として相応しい学校Webページの充実を図るとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する</p> <p>(2)</p> <p>ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを推進する。</p> <p>イ 安全・安心な学校づくりに努める。</p> <p>ウ 地域貢献を推進する。</p> <p>エ 富田林市が「SDGs未来都市」に選定されたことに伴い、学校として取り組めることを追</p>	<p>(1)</p> <p>ア・中学、高校それぞれの対応する分掌を協働的に機能させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種委員会等の主担当などに経験年数の浅い教諭を充てるなど、人材育成も見据えた組織刷新を図る。</li> </ul> <p>イ 全国の先進中高一貫校の視察等を通して、中高一貫教育を推進させるための取組みについて効果的な実例を収集し、カリキュラムや組織体制を充実させる</p> <p>ウ 中高一貫校としてふさわしい学校 Web ページに全面改訂すべく、プロジェクト化して取組みを進める。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校運営協議会を通して、学校運営や学校の課題に対して、保護者や地域の住民の方々が学校運営に参画できるよう努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「めざす学校像」の共有化を図るとともに、コミュニティ・スクールについての情報収集を継続する。</li> </ul> <p>イ・中高一貫した防災教育計画に基づき防災訓練等を実施するとともに、安全安心のための学校環境の整備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安否確認等を迅速に行えるよう、適当な時期に想定訓練を実施する。</li> <li>・教育相談委員会において情報を収集し、全教職員での共有化を図る。</li> </ul> <p>ウ・地域からの要請に応えるだけでなく、地域に出かける活動を取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO等）との連携を踏まえた「探究Ⅰ」の成果発表会である地域フォーラムを開催する。</li> <li>・地域貢献活動を実施する。</li> </ul> <p>エ 地域の自然再生の取組みに参画し、「石川アユ再生プロジェクト」などで生徒会や科学部などが主体性をもって自治体に協力する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・中高それぞれの対応する分掌を協働的に機能させ、(教員対象)学校教育自己診断における分掌等の機能や中高の協働性についての評価平均 50%以上をめざす。[46%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成を見通した組織刷新が行えたか。</li> </ul> <p>イ 中高一貫校の先進校情報を収集し、学校づくりに活かしたか。</p> <p>ウ 中高一貫校としてふさわしい学校 Web ページが完成したか。</p> <p>(保護者向け) 学校教育自己診断における情報発信の満足度 90%以上を維持する。[93%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校運営協議会において、保護者や地域の住民の方々が活発に意見交換を行い、学校運営に参画できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断における学校満足度について、生徒対象[93%]、保護者対象[90%]ともに 90%以上を維持する。</li> <li>・地域フォーラムやオープンスクール、地域公開授業など、地域や保護者に対して学校を開く機会を5回以上作る。[3回]</li> </ul> <p>イ・防災訓練、安否確認想定訓練等を実施できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(生徒対象) 学校教育自己診断「困っていることや悩みを相談できる先生がいる」70%をめざす。[68%]</li> </ul> <p>ウ・生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動をそれぞれ1回以上実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO等）との連携を踏まえた「探究Ⅰ」の成果発表会である地域フォーラムを、前年度規模以上(令和2年度19団体参加)で開催できたか。</li> <li>・河川清掃などの地域でのボランティア活動を継続できたか。</li> </ul> <p>エ 石川アユ再生プロジェクトの立ち上げに関わることができたか。</p>

	求する。 オ 120周年を迎え、記念事業に取り組む。	オ PTA や同窓会とともに 120 周年記念事業委員会を発足させ、記念事業を推進する。	オ 120 周年記念事業を実施できたか。	
5 働き方改革の推進	(1) ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則った部活動指導を行い、またノー残業デーを徹底し、時間外勤務を縮減する。 イ ルーティン化している校務や業務分担の在り方を見直し、全体としての業務軽減を進めるとともに、各人の業務平準化を図る。	(1) ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」の徹底を図り、本校のノー残業デーである金曜日に掲示板等での呼び掛けも行って、定時退勤を促す。  イ 校務の見直しを行い、ルーティン化している業務の廃止もしくは効率化を進め、軽減を図る。	(1) ア ノークラブデーやノー残業デーが徹底されているか。一人当たりの1ヶ月平均時間外勤務（令和2年度 45 時間 29 分）を1割削減する。  イ 校務の見直しを図り、二つ以上の業務の廃止をめざす。  ア、イとも、(教員対象) 学校教育自己診断結果における富田林高校での勤務満足度 85%以上を維持向上させる。[85%]	